



14.21

289

大正八年六月

大正七年度業務報告

富山縣立農事試驗場

始



142-289

大正七年度業務報告目次

一、稻作ノ部

第一、品種比較試驗……………	頁數
第二、品種比較豫備試驗……………	一
第三、純系淘汰法……………	一
第四、豐凶考照試驗……………	一
第五、移植株數對肥量試驗……………	二
第六、深耕對施肥料試驗……………	四
第七、苗代灌水深淺試驗……………	四
第八、施肥法試驗……………	四
第九、窒素質肥料比較試驗……………	五
第十、稻種移植期試驗……………	五
第十一、窒素用量試驗……………	五

大正
8. 9. 13
内交

第十二、磷酸用量試驗……………六

第十三、加里用量試驗……………六

第十四、濕田窒素質肥料試驗……………六

二、蔬菜ノ部

第一、輪作試驗……………六

第二、試作……………七

三、除害ノ部

第一、稻熱病對肥料三要素關係試驗……………一〇

第二、稻熱病對肥料關係試驗……………一

第三、桃炭疽病豫防試驗……………二

第四、茄、蕃茄、青枯病豫防試驗……………二

第五、蕪菁根瘤病豫防試驗……………二

第六、葱薊馬虫驅除試驗……………三

第七、爪守驅除試驗……………三

四、農藝化學ノ部

第八、鯨油殺虫劑効力試驗……………一四

第九、稻麥除試驗……………一四

第一、肥料三要素効果試驗……………一五

第二、窒素質肥料試驗……………一五

第三、分析……………一五

五、調査ノ部

第一、二化螟虫發生期調査……………一五

第二、二化螟虫加害時期調査……………一六

第三、二化螟虫ニ對スル藁以掻調査……………一六

第四、稻早中晩ト螟虫被害關係調査……………一七

六、事務ノ部

第一、出張……………一七

第二、文書發收件數……………一八

第三、出版物發行	一八
第四、參觀人	一八
第五、配付	一八
第六、質問應答	二〇
第七、練習生養成	二〇
第八、經費	二一

大正七年度業務報告

試驗

一、稻作ノ部

第一 品種比較試驗

本試驗ノ目的ハ本縣ノ風土ニ適應セル優良品種ヲ見出サントスルモノニシテ十二品種ニツキ比較試驗ノ結果良好ナル成績ヲ示シタルモノヲ成熟期順ニ示セハ左ノ如シ

早石	白(二石九斗〇升一合)	成熟期	十月一日
變二四號	白(二石九斗七升〇合)	同	
石	白(三石〇斗〇升〇合)	同	十月八日
變二〇號	白(二石九斗二升八合)	同	
畿内早生六一號	白(三石〇斗一升二合)	同	

第二 品種比較豫備試驗

本試驗ハ前項品種比較試驗ニ供用スルニ先チ豫メ其品種ノ優劣ヲ識別シ良好ナルモノノミヲ選抜

セシカタメニ行フモノニシテ粳二十八品種糯二十品種ニツキ試験セル結果粳ニ在リテハ早生愛國
早千葉錦、珍好、水野錦、畿内大場二號、畿内早生三二號、二本三、石白(新潟縣)糯ニ在リテハ
石白糯、九右衛門糯、大正糯等收量最モ多キヲ示セリ

第三 純系淘汰法

本法ハ在來品種中ヨリ優良ナル純系ヲ選出セントスルヲ以テ目的トス

一、純系淘汰第一年月目

品種 前澤、無芒愛國

前澤種ハ下新川郡三十二ヶ所ヨリ蒐集シ九千四百六十六株ヲ栽培調査シ其結果明年度純否鑑定ニ
供用セントスルノ二百八十四株ヲ選抜セリ

無芒愛國ハ婦負、東西彌波、氷見ノ四郡十六ヶ所ヨリ蒐集シ四千七百七十二株ヲ栽培調査シ其結果
百四十四株ヲ選出セリ

二、純系淘汰第二年月目

品種 石 白

前年選出セル二百八十四株ニツキ調査ノ結果明年度生産力比較試験ニ供用セントスルモノ二十四
系ヲ選抜セリ

三、純系淘汰第三年月目

品種 大 場

本試験ハ純系淘汰第二年月ヨリ選抜セル各系統ニツキ其生産力ノ優劣ヲ比較試験セントスルモノ
ニシテ四十四系中ヨリ優良ト認ムルモノ十系ヲ選抜シ第四年月ノ試験ニ供用セントス

第四 豊凶考照試験

本試験ハ毎年同一ノ地ニ同一ノ稻種ヲ同様ナル耕種法ニテ栽培シ一定ノ時期ニ於テ其生育ノ狀況
ヲ調査シ既往ノ成績ト對照シ其年ニ於ケル豊凶豫知ノ資料トナサントスルモノニシテ數回其生育
狀況ヲ調査發表セリ今一度反歩當リ收量ヲ既往ノ成績ト比較セハ次シ如シ

品種名	大 正 七 年	前 三 ヶ 年 平 均	比 較 增 減
早稻二種平均	11.18	11.02	△
中稻二種平均	11.11	11.01	△
晚稻三種平均	11.00	11.11	○

△印ハ減トス

第五 移植株數對肥量試驗

本試験ハ稻苗移植株數ニ伴フ施肥量ノ差異カ稻ノ生育收量ニ及ボス影響ヲ知ラントスルモノニシ

テ一坪株數三十六株、四十八株、六十株ノ三種トナシ肥料ハ堆肥、大豆粕、硫酸アシモニヤ、過
磷酸石灰、糞灰ヲ用キ窒素磷酸加里各全量ヲ二貫、二貫五百匁、三貫ノ三種トナシテ試驗シタル
結果、株數ニ對シテモ亦施肥量ニ對シテモ其多キモノ收量ノ増大ナルヲ示セリ即チ株數ニアリテ
ハ六十株植最モ多ク施肥量ニ在リテハ株數ノ各區ヲ通シ窒素三貫區其收量ノ大ナルヲ示セリ

第六 深耕對施肥料試驗

本試驗ハ耕鋤ノ深サト施肥量ノ多少トハ稻ノ生育ニ如何ナル影響ヲ受クヘキヤヲ知ラントスルモ
ノニシテ耕鋤ノ深サハ四寸、五寸、六寸ノ三種トナシ肥料ハ前項試驗ト同シク三種トシテ試驗シ
タル結果其深キニ從ヒ玄米ノ收量ヲ増加シ施肥量ニアリテハ何レモ三貫施用區收量大ナリ

第七 苗代灌水深淺試驗

本試驗ハ稻苗灌水ノ深サカ插秧後ノ稻ノ生育收量ニ及ホス影響ヲ知ラントスルモノニシテ試驗區
別ハ一步一升播、一步三合播トシテ深水ヲ堪エタルモノト同シク一步三合下種淺水トシテ苗ヲ仕
立テタルモノニシテ試驗ノ成績ハ前者ノ深水ハ何レモ收量劣リ淺水區ノ健全苗ヲ移植セシモノ其
收量多キヲ示セリ

第八 施肥法試驗

本試驗ハ同一ノ肥料ヲ施用スル場合ニ於テ施肥法ノ如何ニ依リ稻作ニ及ホス影響ヲ知ラントスル
モノニシテ其方法ハ全部基肥ニ施シタルモノ、硫酸アンモニヤヲ追肥ニ施シタルモノ、磷酸及加
里質肥料ヲ追肥トナセシモノ更ニ一區ハ磷酸加里質ノ追肥ヲナセシモノニ少量ノ穗肥ヲ施シタ
モノ、四區ニシテ其成績ハ磷酸及加里質肥料ヲ七月十日追肥トナセシモノ收量多キヲ表セリ

第九 窒素質肥料比較試驗

本試驗ハ諸種窒素肥料ノ効能ヲ比較セントスルモノニシテ人糞尿、硫酸アンモニヤ、紫雲英、厩
糞、笹目、蝶粕、大豆粕ノ七種ニツキ試驗シタル結果魚肥ノ各區ハ肥効最モ多ク人糞尿、硫酸ア
シモニヤ、豆粕順次之ニ次キ紫雲英ノ肥効最モ少ナカリキ

第十 稻苗移植期試驗

本試驗ハ苗ノ生育狀態ニ伴フ移植ノ適期ヲ知ラントスルモノニシテ五月二十一日、同二十八日、
六月三日、同十日、同十七日ノ五期ニ分チテ移植シタルニ一步一合播六月十日植玄米收量最モ多
ク一步五合播五月二十八日植最モ劣レリ

第十一 窒素用量試驗

本試驗ハ窒素ノ適量ヲ知ラントスルモノニシテ無窒素、窒素一貫目、一貫五百匁、二貫目、二貫
五百匁、三貫目ハ六區ニ分チテ試驗シタルニ窒素一貫目區最モ良好ニシテ窒素用量ノ増加ニ從ヒ

收量ノ減少ヲ表セリ

第十二 磷酸用量試験

本試験ハ磷酸ノ適量ヲ知ラントスルモノニシテ無磷酸、磷酸一貫目、一貫五百目、二貫目、二貫五百目、三貫目ノ六區ニ分テテ試験シタルニ各區ニ著シキ差異ヲ認メス

第十三 加里用量試験

本試験ハ加里ノ適量ヲ知ラントスルモノニシテ無加里、加里一貫目、二貫目、三貫目ノ四區ニ分テテ試験シタルニ各區ニ大ナル差異ヲ見ス

第十四 濕田窒素質肥料試験

本試験ハ濕田ニ於ケル各種窒素質肥料ノ效能ヲ知ラントスルモノニシテ無窒素、堆肥、大豆粕、胴躑、笹目、蝶粕ノ六區ニ分テテ試験シタルニ胴躑、蝶粕最モ有効ニシテ大豆粕、笹目之ニ次ケリ

一、蔬菜ノ部

第一 輪作試験

試験地ヲ十區ニ分テ各區ヲ六十歩宛トシ二作若クハ三作ノ蔬菜ヲ栽培シ以テ優良ナル經濟的輪作法ヲ知ラントスルニアリ而シテ本試験ハ大正五年度ヨリ四ヶ年ノ繼續試験ニシテ本年ハ其第三年

目ニ當レリ其試験區別左ノ如シ

區別	大正五年度			大正六年度			大正七年度		
	第一作	第二作	第三作	第一作	第二作	第三作	第一作	第二作	第三作
第一區	甘藍	葱	夏大根	西瓜	山東白菜	麥	茄	里芋	
第二區	夏大根	菜豆	菘	西瓜	白菜	菘	里芋		
第三區	麥	茄	菘	越瓜	蘿蔔	馬鈴薯	葱	西瓜	
第四區	碗豆	葱	菘	白菜	蘿蔔	夏大根	西瓜	蘿蔔	
第五區	夏大根	西瓜	蘿蔔	茄		夏大根	菜豆	葱	
第六區	麥	越瓜	蘿蔔	馬鈴薯	早生蘿蔔	碗豆	葱	菜豆	
第七區	麥	南瓜	蘿蔔	早生蘿蔔	體菜	麥	葱	胡瓜	
第八區	麥	胡瓜	白菜	里芋	體菜	麥	越瓜	胡瓜	
第九區	夏大根	里芋	白菜	南瓜	蘿蔔	甘藍	白菜	越瓜	
第十區	馬鈴薯	早生蘿蔔		葱	蘿蔔	夏大根	南瓜	白菜	

右本年度(大正七年度)ノ成績ヲ調査スルニ第二區收益最モ多ク第一區、第十區、第八區、第三區第二區、第五區、第九區、第七區、第六區順次之ニ次ク

第二 試作

(一) 春蒔蔬菜ノ生育並ニ收量調査

間作用ノ小野菜ヲ春蒔シテ其生育日數及收量ヲ調査セリ作付歩數ハ何レモ五步ツ、ニシテ左ノ如シ

品種	播種期	發芽	移植	收穫始	收穫終	生育日數	員收	數量	目量
蒺藜草	四月一日	四月八日		五月二日	五月九日	四十四日乃至五十五日	九十把	九十把	四、五〇〇
高 苳	四月二日	四月九日		五月三日	五月十日	四十七日乃至五十八日	八十把	八十把	三、〇〇〇
高 苳	四月三日	四月十日		五月四日	五月十一日	四十七日乃至五十八日	九十把	九十把	三、〇〇〇
秋蒔高苳	九月三日	九月十日		六月三日	六月十日	本畑二百三十日乃至七月七日	三百九十球	四百四十球	六、〇〇〇
絲ミツバ	四月二日	四月九日		五月二日	五月九日	本畑二百三十日乃至七月七日	九十九把	九十九把	四、〇〇〇
廿日大根	四月二日	四月九日		五月二日	五月九日	本畑二百三十日乃至七月七日	四十九把	四十九把	四、〇〇〇
三寸人參	四月二日	四月九日		五月二日	五月九日	本畑二百三十日乃至七月七日	四十九把	四十九把	四、〇〇〇

(一) 馬鈴薯ノ收穫期ト生産物市價トノ關係調査

普通栽植期ニ長崎赤ヲ植エ六月十日ヨリ五日目毎ニ收穫シ以テ其收量ト市價トヲ調査セリ

收穫月日	作付歩數	大薯	中薯	屑薯	總收量	大薯	中薯	小薯	總價額
六月十日	十步	五、一〇〇	三、二五〇	八、六〇〇	九、二一〇	一九	七	七	二、四〇〇
同十五日	同	九、七〇〇	二、二五〇	六、六〇〇	一、一、六〇〇	一七	八	七	一、八〇〇
同二十日	同	一、二、〇〇〇	二、二五〇	一、〇一〇	一、一、〇二〇	一五	六	二	一、八〇〇

(二) 絲「ミツバ」收穫期ト生産物市價トノ關係調査

四月五日ニ野蜀葵ヲ播種シ六月十五日ヨリ五日毎ニ收穫シ絲「ミツバ」トシテ之ヲ市場ニ出シ以テ收量ト市價トヲ調査セリ

收穫月日	生育日數	作付歩數	收穫把數	收量	一把ノ單價	市價
六月十五日	六十四日	十步	一、五〇	六、二〇〇	一、二	一、八〇
同二十日	六十九日	同	一、七〇	七、九〇〇	一、一	一、三〇
同二十五日	七十四日	同	一、一五	九、二〇〇	一、〇	一、一五
七月一日	七十九日	同	一、五〇	一〇、八〇〇	一、〇	一、五〇

(四) 三寸人參ノ生育並ニ收量調査

四月三日播種シ人參ノ太サ經八分位トナリタルモノニシテ順次間引キテ之ヲ市場ニ出シ以テ收量ト市價トヲ調査セリ

收穫月日	生育日數	生産物	本收數	把數	單市價	總價額
五月二十五日		葉人參	四、一〇〇	二四	五	二、〇五

六月十三日	六十九日	上人	參	五四〇	五四	一八	九七
同十八日	七十四日	上人	參	五六〇	五六	一五	八五
同二十五日	八十一日	中人	參	八五〇	八五	一一	九四
同三十日	八十六日	上人	參	三三〇	三三	一三	四三
計		中人	參	二九三〇	二九三	一〇	四三八

(備考) 作付歩數ハ一畝歩トス

(五) 葱頭收穫期ト收量トノ關係調査

稻ノ前作トシテノ葱頭栽培ノ價值ヲ知ラレンカ爲メ同一耕種法ニヨリ試作シ單ニ收穫期ノミヲ異ニシテ其收量及市價ヲ調査セリ作付歩數十歩ツ、ニシテ左ノ如シ

收穫月日	收量				市價			
	大玉	中玉	屑玉	計	大玉	中玉	屑玉	計
六月十日	一、五五〇	五、四〇〇	六、一〇〇	一三、〇五〇	四〇	八五	四〇	一六五
六月二十日	一、一八五	五、五〇〇	六、九〇〇	一三、五九〇	四〇	九〇	四〇	一七〇
七月一日	九、四五〇	四、九〇〇	一〇、〇〇〇	二四、三五〇	一四五	一一〇	五〇	三〇五

三、除害ノ部

第一 稻熱病對肥料三要素關係試驗

本試驗ハ肥料三要素ノ割合カ稻熱病發生ト如何ナル關係アルヤヲ知ラントスルモノニシテ標準(肥料三要素反當用量窒素二貫匁、磷酸一貫八百匁、加里一貫六百匁ノ割合ニテ硫酸アンモニア過磷酸石灰、硫酸加里ヲ使用)無肥料、無窒素、無磷酸、無加里、窒素倍量、窒素三倍量、磷酸倍量、磷酸三倍量、加里倍量、加里三倍量ノ十一區ニツキ試驗シタルニ窒素用量多キ場合、磷酸及加里不足ノ場合ハ共ニ病蟲ノ被害ヲ多カラシムルカ如シ而シテ收量ニ於テハ標準區三石〇四升五合、磷酸三倍量區三石三斗、加里三倍量區三石五斗二升五合、窒素倍量區二石五斗〇五合、窒素三倍量區一石八斗ニシテ其他ノ區ニ於テハ大差ナカリキ

第二 稻熱病對肥料關係試驗

本試驗ハ肥料ノ種類用量配合ノ如何ニヨリ稻熱病發生ニ及ホス關係ヲ知ラントスルモノニシテ一偏窒素少量區(反當大豆粕十貫)二、同中量區(大豆粕二十貫、厩肥百貫、石灰五十貫)三、同多量區(大豆粕四十貫)四、同(鰾粕三十貫)五、同(硫酸アンモニア十五貫)六、配合少量區(大豆粕十貫、過磷酸石灰五貫、藁灰十貫)七、同中量區(大豆粕三十貫、厩肥百貫、過磷酸石灰七貫、藁灰十五貫、石灰五十貫)八、同多量區(大豆粕四十貫、過磷酸石灰十貫、藁灰三十貫)九、同(鰾粕三十貫、過磷酸石灰十貫、藁灰三十貫)十、同硫酸アンモニア十五貫、過磷酸石灰十貫、藁

灰三十貫)ノ十區トシ各括孤内ノ如ク施用シ試験シタルニ偏窒素多量區配合多貫區ハ共ニ病蟲ノ被害多キ傾キアルモ收量ニ於テ大差ナカリキ

第三 桃炭疽病豫防試験

本試験ハ桃炭疽病豫防上藥劑種類並ニ撒布回数トノ關係ヲ知ラントスルモノニシテ婦負郡西吳羽村吉作ニ於テアムステンジュン種ニツキ石灰ボルドウ液(落花直後、ハ二斗式、豆大ノ時過三斗式、指頭大ノ時、袋掛前六斗式撒布)及酸曹液(落花直後、豆大ノ時五十倍液、指頭大、袋掛前八十倍液撒布)ノ二種ヲ以テ落花直後ヨリ袋掛前迄四回、豆大ノ時ヨリ袋掛迄三回及無豫防ノ五區ヲ設ケ試験シタルニ本年度ハ各區共發病少ナク成績判明セサリシモボルドウ液四回撒布區ハ成績割合ニ良好ナリシカ如シ

第四 茄、蕃茄、青枯病豫防試験

本試験ハ青枯病豫防上有効ナル藥劑ヲ知ラントスルモノニシテ、燒土性石灰、木灰、糞灰、硫黃華フオルマリソ液、酸曹液、石灰窒素、無豫防ノ九區ニツキ試験シタルモ各區共發病ノ程度同一ニシテ藥劑ノ効力ヲ比較シ能ハサリキ

第五 蕪菁根瘤病豫防試験

本試験ハ蕪菁根瘤病豫防上有効ナル藥劑ヲ知ラントスルモノニシテ前記青枯病豫防試験ニ於ケルト同

一ノ藥劑ヲ以テ試験シタルニ各區共發病株ナク藥劑ノ効力ヲ比較シ能ハサリキ

第六 葱薊馬虫驅除試験

本試験ハ葱薊馬虫驅除上有効ナル藥劑ヲ知ラントスルモノニシテ石鹼液(水一升ニツキ石鹼三匁四匁)除虫菊加用石鹼液(水一升ニツキ石鹼二匁、除虫菊粉五分一匁)石油乳劑(四、五十倍)除虫菊加用石油乳劑(五、六十倍)ノ八種ニツキ試験シタルニ石鹼液(水一升ニ付四匁)除虫菊加用石鹼液(水一升ニツキ石鹼二匁、除虫菊粉一匁)ノ二種ハ効力薄弱ニシテ、石油乳劑(五十倍)除虫菊加用石油乳劑(六十倍)ノ二種ハ効力伯仲シ石油乳劑(四十倍)及除虫菊加用石油乳劑(五十倍)ハ効力最モ大ナリキ

第七 爪守驅除試験

本試験ハ爪守驅除ニ有効ナル藥劑ヲ知ラントスルモノニシテ除虫菊浸出液(水一升ニツキ三匁、四匁)亞砒酸曹達加用ホルドウ液一斗ニツキ亞砒酸曹達液五匁加入、バリスグリーン加用ホルドウ液(二斗式ホルドウ液一斗ニツキバリスグリーン五匁、八匁、十匁ノ加入)鯨油殺虫劑(一斗、二斗、稀釋液)ノ八種ニツキ試験シタルニ最モ有効ナリシハバリスグリーン加用ホルドウ液及鯨油、殺虫劑ナリシモバリスグリーン十匁、加用及鯨油、殺虫劑(一斗稀釋液)ハ作物ニ多少藥害ヲ認メタリ

第八 鯨油殺虫劑効力試験

本劑ハ殺虫効力ヲ知ラントスルモノニシテ一斗、一斗五升、二斗稀釋液ヲ作り害虫蚜虫(二斗稀釋液、蔬菜螟蛉一斗稀釋液)軍扇虫(二斗稀釋液)ニ使用シタルニ何レモ括弧内ノ稀釋液ニテ死滅スルヲ認メタリ

第九 稻芟除試験

本試験ハ二化螟虫第一化期ノ喰害ヲ受ケタル場合ニ於テ之レカ驅除トシテ稻莖ヲ下部ヨリ芟除スル時ハ稻ノ生育並ニ收量ニ及ホス關係ヲ知ラントスルモノニシテ試験別及其ノ成績左表ノ如シ

試験別	反當玄米收量(甲)	反當玄米收量(乙)
插秧後 五日目芟除	二五九九	二六四〇
同 十日目同	二四〇〇	二七九〇
同 十五日目同	二四八〇	二九一〇
同 二十日目同	二二九〇	二六〇〇
同 二十五日目同	二二二〇	二五二〇
艾除セス	二五六〇	二〇〇〇

備考 插秧月日 六月四日
甲ハ芟除後追肥ヲ施用セザルモノ

乙ハ芟除後反當五十貫ノ人糞尿ヲ施用モタルモノ

四、農藝化學ノ部

第一 肥料三要素効果試験 (ポット試験)

本試験ハ昨年度ニ繼續施行セルモノニ係リ縣内七個所ヨリ供試土壤ヲ採集シ水稻ニ對シ土性別三要素効果ヲ明ニセントスルモノナリ

第二 窒素質肥料試験 (ポット試験)

本試験ハ主要窒素質肥料ノ水稻ニ對シ効力ヲ驗知セントスルモノニシテ之ニ供用セルモノ胴鍊大豆粕及硫酸アンモニアノ三種ナリシカ三者大差無キ成績ヲ示セリ

第三 分析

本年度内ニ於ケル分析點數ハ依頼分析肥料二百六點土壤二十四點場用分析肥料七點其他十三點合計二百五十點此分析總成分數四百八十三ナリ

五、調査ノ部

第一 二化螟虫發生期調査

本調査ハ二化螟虫發生時期ヲ知ランカ爲ノ第一回發蛾初期ヨリ第二回發蛾ノ終期ニ至ル迄圃場ニ豫察燈ヲ点火シ調査シタルニ其ノ發生期左表ノ如シ

化蛾期別	發期生別	七 年 正	六 年 正	五 年 正	四 年 正	三 年 正	二 年 正	元 年 正	明 治 四 十 四 年	明 治 四 十 三 年
第一化期	發蛾初期	五月二日	五月七日	五月十四日	五月二十一日	五月二十八日	六月四日	六月十一日	六月十八日	六月二十五日
	最盛期	五月十一日	五月十七日	五月二十四日	六月一日	六月八日	六月十五日	六月二十二日	六月二十九日	七月六日
第二化期	發蛾初期	六月二日	六月七日	六月十四日	六月二十一日	六月二十八日	七月四日	七月十一日	七月十八日	七月二十五日
	最盛期	六月十一日	六月十七日	六月二十四日	七月一日	七月八日	七月十五日	七月二十二日	七月二十九日	八月六日
	最終期	六月二十日	七月六日	七月十三日	七月二十日	七月二十七日	八月三日	八月十日	八月十七日	八月二十四日

第二 二化螟虫加害時期調査

本調査ハ二化螟虫驅除豫防上稻被害莖切取ノ適期ヲ知ランカ爲メ稻插秧後(六月二十五日)ヨリ五日毎ニ被害莖ヲ切取り莖中存虫數ヲ調査シタルニ第一化期ハ六月下旬乃至七月上旬第二化期八月上旬一莖中ニアル虫數(最多數百九十頭)多數ナリキ

第三 二化螟虫ニ對スル藁垣搔調査

本調査ハ藁垣中越冬スル二化螟虫ノ蛹化期ニ際シ小熊手ヲ以テ垣ノ周圍ヲ搔拂ヒ採集セル螟虫數

ヲ調査セルモノニシテ三百八十八束ノ藁垣ヲ五月一日ヨリ六月七日迄通計三十回ニ亘リ搔取リタル螟虫數ハ二千六百八十八頭ニ達セリ

第四 稻早中晩ト螟虫被害關係調査

本調査ハ稻ノ早、中、晩ト螟虫被害關係ヲ知ランカ爲メ各々二種宛ニツキ六月二十九日ヨリ八月二十六日ニ亘リ五回切取リタル螟虫被害莖數左ノ如シ(但シ調査面積各々十歩宛)

早稻四谷(千五百〇八本) 同 水 島(千四百四十五本)
 中稻石白(九百九十五本) 同 大 場(千三百四十一本)
 晚稻鍋割(八百九十七本) 同 無芒愛國(九百七十二本)

六、事務ノ部

第一 出張

御用柄	管内		管外	
	回数	延日數	回数	延日數
農事講話	五三	二九		
實地指導	三二	四六		
農事會檢査	一八	二六		

第六 質問 應答

文書ヲ以テ質問ニ應答シタルモノ左ノ如シ

- 家禽ニ關スル件 拾參件
- 普通作物ニ關スル件 拾件
- 病虫害ニ關スル件 壹件
- 肥料ニ關スル件 拾件

第七 練習生養成

- 中新川郡柿澤村柿澤 野崎彦次郎
- 下新川郡村椿村飛彈 大坪唯一
- 婦負郡八幡村利波 河西道行
- 同郡東吳羽村下野新 島田義重
- 射水郡大島村北野 萩行岩二
- 東礪波郡南野尻村上野 上田孝健
- 同郡野尻村野尻 齊藤正吉

第八 經費

經常費 金壹万四千四百五拾五圓

内譯

- 俸給 金四千貳百九拾六圓
- 雜給 金參千參百參拾壹圓九拾壹錢
- 場費 金四千七百六拾六圓
- 修繕費 金參百四拾七圓
- 米麥原種圃費 金千百拾六圓九錢
- 米麥採集圃費及種子配付監督費 金五百九拾八圓

大正七年度業務報告終

1421
289

大正八年六月二十五日印刷
大正八年六月三十日發行

富山縣立農事試驗場

富山市二番町五番地
富山商會代表社員

印刷者

清水宗三郎

印刷所

富山市二番町五番地
富商會

終

